

## 転堂遺跡の発掘調査成果について

### 1. 遺跡の概要

遺 跡 名 転堂（ころびどう）遺跡  
 所 在 地 長岡市上除町地内  
 遺跡の時代 縄文時代中期  
 遺跡の種別 集落跡



### 2. 調査の概要

調査原因 道路改良工事  
 調査期間 令和4年5月30日～7月1日  
 調査面積 150 m<sup>2</sup> (3m×50m)  
 調査成果

- ・周辺の馬高遺跡、南原遺跡とほぼ同じ時期に営まれた集落跡である。
- ・竪穴住居や炉跡が合計3基検出された。
- ・炉跡は2基検出され、炉の中に土器が埋設されていた。
- ・多量の遺物が出土し、縄文時代中期中葉頃の土器が主体。  
 （火焰型土器、桁倉式土器など）
- ・石器はあまり多くないが、打製石斧・磨製石斧・石鏃・磨石などが出土した。
- ・これまで畑として利用されていたことにより削平されていると思われたが、部分的に良好な遺物の堆積が残っており、多量の遺物が出土した。

